

1学期最終月になりました。本日の授業参観・懇談会へのご出席、大変お世話になりました。しかし、暑いなあ～

PLUS ULTRA 秘訣2「自己原因性の感覚を高める」

運動会が終わって、ふた月が過ぎようとしている早朝、登校してきた1年生のお子さんが、話しかけてきました。

「私は、6年生になったら応援団長になる。かっこいいもん」

とても素敵な「なりたい自分」を見つけたようです。いいね。👍

とともに、運動会が終わって割と時間を経てのこの発言に、少々驚かされました。これは、強い意志の表れですね。それほど、なりたいんだ～。「なる」って言いきっているし。

1年生のお子さんの決意は、とてもかっこいいなあ、と思うのです。が、同じようにそれだけの影響力を与えた応援団長たちの活躍も素敵だなあと、すがすがしい気持ちになります。

つい、人は生き方を思い上がることがあります。「一人で何でもできる」、だから誰の助けもいらないし、自分勝手にやっても構わない。一人で生きていくんだから、私の人生なんだから、と。

どうやら、違うようです。

「バタフライエフェクト」という言葉があります。日本語では「風が吹けば桶屋が儲かる」ですね。ブラジルで蝶が羽ばたいたその風の影響で、アメリカテキサスに竜巻が起きる、と「わずかな変化の与える影響が、その後の状態を思わぬほど大きく変えてしまう」という意味の言葉です。これらの考え方は「カオス理論」という、現代科学の最先端の考え方を生み出します。

そう、自分が思っているほど、他者への影響は小さくない、その上、自分が思っているような影響ばかりではない、ということです。

応援団長のがんばりは、もちろん1年生のお子さんの夢にまでなるかっこいい「なりたい自分」。でも、当の応援団長は、そんな影響などは考えていない。むしろ、自分がこうありたいという「なりたい自分」を見定めて、ずいぶん長いこと努力を重ね、成し遂げ（ている途中かも）たわけです。

誰もが影響力をもちながら、人はつながり（社会）の中で生きています。だからこそ、影響を現に与えているというこのような実感が重要です。そして、この実感は、自分自身で培うものなのだと、私は思うのです。

よく「神様は見ている」と幼少期に言われたことを思い出します。ただ、この言葉は単純に神様を信じるとかそういうことではなく、つまるところ、あなたのその一挙手一投足は、誰かに、具体的に、そうなってほしいと願わなくても影響している、ということ。そして、その影響は本人の是非にかかわらず、計り知れないほど大きくなることもある。ここで注意すべきは、意識せずとも影響力は現にある、ということ。加えて、影響というものは、良いものと良くないものがある。

私に関係ないことは、この世に一つも、ない。

その頑張りや、必ずみんなに伝染し、その伝染した頑張りや自分自身も鼓舞する。逆に、自分勝手や必ず伝染し、その自分勝手は必ず自分自身の「なりたい自分」への道を邪魔してくる。う～ん。

「わたしの言動は、社会の中で多くの影響力を現にもっている」ということを「自己原因性」というそうです。この「自己原因性」の感度を上げていくことが、これからの社会を担う子どもたちには必要なのではないか、と思います。「おれ、関係ないし…」ではなく、やっぱり関係しているんだよね。

